

米づくりのいろは

～中干し編～

中干し前後の水管理

1 中干し前の水管理

- 中干し前は分げつ(茎が増えること)を促すため、水深1～3cm程度の浅水にする。
長期間深水になると、分げつ不足や軟出来、根域の減少につながってしまう。
- 気温の上昇に伴って土中の有機物が発酵し、ガスが発生してイネが根傷みをおこす。定期的に水田内に入ってみて、足元からブクブクと泡が出ていれば水を落として田面を露出させ、田面が乾かない程度に軽く干す(ガス抜き)。葉の黄化や分げつ遅れがある場合は、すでに根痛みが起こっている可能性がある。

ガスを抜いて
大切な根を守って！

2 中干し

(1) 中干しの目的

- 無効分げつの発生抑制
- 土中への酸素供給と有害ガスの排出
- 根腐れ防止、根の縦伸長と活性化
- 葉色低下による下位節の伸長抑制
- 床締めで倒伏防止、収穫に備える

品質・食味向上
作業性の向上



中干しとは、水田の水を抜いて
ひびが入るまで土を乾かす作業のこと

©2020鳥取県農業試験場

(2) 中干しの方法

① 開始時期 (田植え後30～40日が中干し開始の目安)

- 下表の茎数が確保できたら遅れずに中干しを始める。

※ただし、標高150m以上の場合は下表の茎数+3～4本を目安とする。

中干し開始の 茎 数	株間18cmの場合 (60株/坪)	株間21cmの場合 (50株/坪)
ひとめぼれ	20本/株程度	23本/株程度
コシヒカリ・星空舞	17本/株程度	20本/株程度
きぬむすめ・日本晴	19本/株程度	22本/株程度

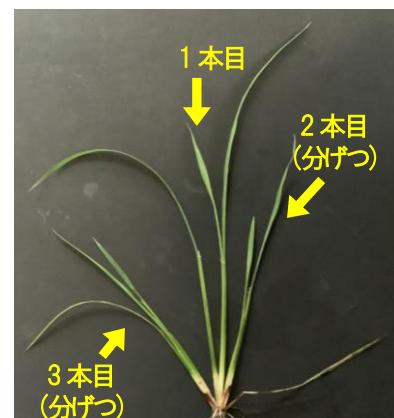
中干し開始お遅れずに。
しっかり中干しできるかが
良食味となるか！



② 中干しの期間

- 中干し期間の目安は土質・株出来・品種・前作によって期間を調節する。

要因	詳 細	中干し期間の目安
品種	コシヒカリ、星空舞	10日程度
	ひとめぼれ、きぬむすめ、日本晴	7日程度
土質	砂質土・地力のない田	7日程度
	粘土質・遅出来しそうな田	10日程度
株出来	株出来がよく、葉色が濃い	10日程度
	株出来が悪い、葉色が淡い	7日程度
前作	水稻	7日程度
	大豆・野菜跡	10日程度



【茎数のかぞえ方】

葉が2枚以上出ている茎を
1本としてかぞえる。
この写真の場合、茎数は3本

(3) 中干しの際の注意点

- 中干し中は水尻のせき板をはずす。
- 暗渠の栓は抜く。
- 地固めできる程度にしっかり干す。
- 雨が降ったら中干し期間を延長する。
- 中干しは出穂1ヶ月(幼穂形成期)前までに終わらせる。
- 降雨等により中干しきできなかった場合は、間断かんがいの乾田期間を長めにとり、徐々に地固めしていく。

田面に立って足かきぐれみとスタッカと歩ける程割ごなったら中干しを終える



茎数 19 本の株



茎数 26 本の株

【この時期の株の見た目】

3 中干し終了後

- 中干し終了後はいきなり水をためず、2回程度は水尻のせき板をはずした状態で入水してさっと水を走らせ、イネを水に慣らす(走り水)。
- 走り水の後は間断かんがいに移行する。せき板をつけて田面の高いところがしっかりと沈む程度に入水して水をとめる。その後自然に水が減るのを待ち、田面の足跡に残った水がなくなりかけた頃にまた入水する。間断かんがいはこの管理を繰り返す。



©2020 鳥取県農業試験場

【足跡に残った水】

【ガス抜き】

途中に1~2回程度水を抜き田面が乾かない程度に干す



【浅水管理】

深水を避けて分けつを促す

間断かんがいは根に水と酸素を供給

夏場はイネを冷やす効果もあり重要な技術!

【中干し】

しっかり干す

【走り水】

1日1回入水
2日程度

自然に減水

自然に減水

自然に減水

軽く干す

軽く干す

【間断かんがい】

- ①しっかり入水した後に入水をとめる
 - ②自然に減水するのを待つ
 - ③足跡の水がなくなりかけた頃にまた入水
- ※この水管理を繰り返す

調整肥の施用

- 調整肥はけい酸や苦土の他、鉄・マンガン・亜鉛などの微量元素を含んだ肥料で、窒素は含まない。
- 調整肥の施用により稻体が硬くなり、病害虫の抵抗力向上や倒伏軽減、受光体制の良化、登熟向上などの効果が見込める。

資材名	施用時期の目安	10aあたり施用量
マルチサポート2号	田植え後30日頃 (中干し前)	20kg(1袋)

雑草対策

＜除草剤使用上はラベルをよく読み登録内容を厳守しましょう＞

追加除草は
遅れずに判断！
ポイント

1 中期・後期除草剤について

- 初中期一発除草剤で取りこぼした雑草は、中期・後期除草剤を追加して退治する。
- 中期・後期除草剤で雑草防除効果が見込めるのは実質中干し中までなので、中干し前までに判断する。
- 薬剤は①残っている雑草がヒエか、ヒエ以外か ②ヒエの葉齢が何葉か ③水田の特性や処理後の天候をもとに湛水散布と落水散布どちらが適しているか 以上の3点を中心に選定する。

2 中期・後期除草剤の選定

※除草剤の選定については、指導期間にご相談・JA 鳥取中央水稻栽培暦をご参照ください。

3 除草剤散布時の水管理

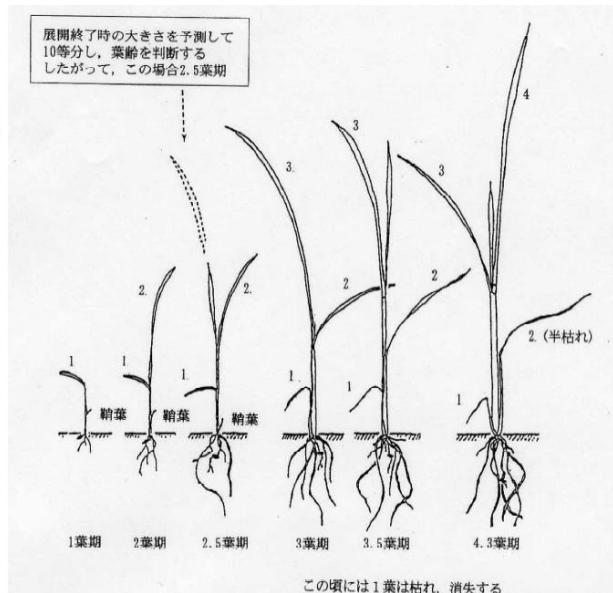
【湛水散布とは】

- 水位5cm程度で薬剤を田面に均一散布する。
- 7日間は止水して、落水・かけ流しはしない。

【落水散布とは】

- 足跡に水が残る程度(落水状態)か、水面上に雑草が出る状態(浅水状態)で散布する。
- 散布後3日間(浅水なら5日間)は入水しない。
- バサグランやクリンチャーバスは処理後2日以内、ノミニーは6時間以内に降雨があると十分な効果が見込めない場合がある。
- 落水散布の薬剤は、雑草の生えている箇所だけスポット的に散布するといった使い方もできる。

水もちが良ければ湛水散布
水もちが悪ければ落水散布
がオススメ



【ノビエの葉齢のかぞえ方】

(出典: 日本植物調整剤研究協会(2002)除草剂試験の手法(7)
—雑草の葉齢の数え方—. 植調 36(3), 105-110)

気をつけたい病害虫と防除

1 いもち病

- いもち病は感染力が高く、多発すると大幅に減収するため、最大の注意が必要な病気。
- 放置した置き苗はいもち病の発生源になる。補植が終わった苗はすぐに裏返しにするか水田内に埋め込むなどして早急に処分する。
- いもち病予防としてコラトップ粒剤5を散布する。
- 梅雨入りして7~10日後には初発が確認されることから、いもち病が発生していないかよく観察し、発生が見られた場合には直ちにブラシンなどの緊急防除薬剤を散布する。
- いもち病が発生した場合は直ちに水を入れて湛

今年は梅雨入りが早く、要注意!
置き苗は早急に処分する



進展型病斑(要注意)



停滞型病斑



置き苗はいもち病の発生源

©2020鳥取県農業試験場

水状態にし、稲の防御態勢を整える。また、いもち病が多発している場合は、穂肥は中止する。

＜いもち病の予防薬剤＞

薬剤名	本剤の使用回数	使用時期	使用量	使用時の水管理
コラトップ粒剤5	2回以内	葉いもちは初発10日前～初発時 (出穂30日前～5日前まで)	3～4kg/10a	湛水処理

＜いもち病の緊急防除薬剤＞

薬剤名	本剤の使用回数	使用時期	使用量	使用方法
ブラシン粉剤DL	2回以内	収穫7日前まで	3～4kg/10a	散布

※ 防除後1週間経過しても病斑の進展が止まらないときは、1週間毎に追加防除する。

緊急防除を行う場合は薬剤の選定について指導機関にご相談ください。



2 紹枯病

- 紹枯病は多発すると品質・食味の低下を引き起こす。
- 7月中旬頃から発病はじめ、8月上旬にかけて横に広がり、その後茎を上方向に向かって進展していく。
- 幼穂形成期～穂ばらみ期にはイネの株元をよく観察し、2割以上の株で紹枯れ病が発生している場合はリンバー等の薬剤を散布する。

薬剤名	本剤の使用回数	使用時期	使用量	使用時の水管理
リンバー粒剤	2回以内	収穫30日前まで	3～4kg/10a	湛水散布

次回は7月3日(土)午後1時30分の予定ですので、ぜひご参加ください

場所:JA三朝支所 農機センター前